

輸出事業計画 株式会社やまも満寿多園

品目：茶



1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 1991年から米国への緑茶輸出をスタートし、米国内は代理店より大手食品問屋を通じ、全米にレストラン等で使用する業務用の緑茶を中心に販売してきた。
- その後、国内の輸出業者を通じての販売や自社での直接取引により、EU・アジアなどへも原料や小売り商品の輸出量を増やしてきた。
- 輸出に際しては各国異なる農薬残留基準があるため、弊社は20年以上前より茶園での生葉生産において、基準をクリアするため、農薬の選別や散布時期などの研究を重ねてきた。現在は自社直営茶園、系列農家、協力農家などで生産する緑茶はすべて、海外農薬基準クリアを目標に管理しており、このようなお茶を活用し、台湾、EU等への輸出量は増加している。

【課題】

- 粉末茶（抹茶含）の需要も増加している。弊社では粉碎設備が無いため外注への委託に頼っており、外注では対応できない依頼もあるため、自社での粉碎加工が不可欠。
- 北米は現地代理店への依存度が高く、米国内の日系への販路は確保できたが、現地系の販路が少なく、今後開拓が必要。



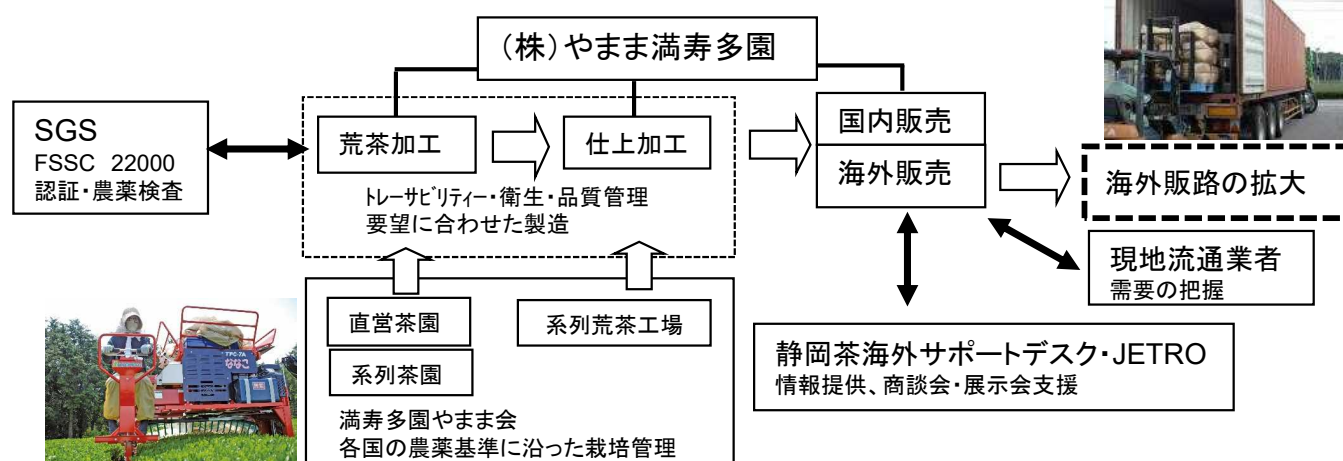
2. 輸出事業計画の取組内容

- 現在取引のある顧客に対してはより営業活動、フォローアップを行い輸出量を増やすための努力を行うと共に、各国のローカル企業へのアプローチを積極的に行い直接取引を増やし、緑茶原料、業務用商品、小売用商品の各種の販売に努力する。
- 弊社では飲食店への業務用商品が大きなシェアを占めていたが、コロナ禍によるレストラン休業で、この分野への緑茶の売り上げは大きく落ち込んでいる。しかし小売り商品はNB、PB商品共に伸びている。また一部の国では、飲料商品への原料や粉末茶などは同じく増加している。今後これらの商品の販売を強化するために、粉末茶の自社での加工を行い顧客のニーズに応えていく。煎茶や抹茶だけではなく最近では、ほうじ茶や玄米茶などの粉末も問い合わせや受注があり、アイテムも多様化している。粉碎機を導入して自社で粉碎することにより、サンプルの提示も容易になり、少量の依頼にも応えることができれば、アイテムの多様化にも対応できる。
- 原料確保が重要なポイントになるが、元々弊社は生産農家から六次産業化を進めてきたため、茶園管理においては経験が長く、生産のノウハウの蓄積を活用し、農薬基準クリアなお茶づくりに協力していただける農家を増やしていく。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- 約30haの自社直営茶園の他に系列農家茶園(100%買い取り)、協力工場、協力農家(一部買い取り)の生葉又は荒茶を海外対応茶園で生産する指導を行い、農薬基準クリアできるお茶づくりが可能な連携体制を構築している。
- 農家に対しては海外対応協力費等を支払い協力の対価としており、大変厳しいお茶の業界の中で少しでも茶農家の収入を増やす体制になっている。今後も需要に合わせ協力農家も増やしていく。
- 地域の残留農薬基準に適合した茶の供給のため、農薬検査は現在台湾のSGSで検査(481項目)を行っており、年間ロットごとに100検体以上の検査を実施し、仕向け地別にお茶を選択し輸出している。協力農家にも情報を共有することで、輸出の条件やお客様の要望に適したお茶づくりを推進していく。
- 静岡茶輸出拡大協議会に参加しており、静岡茶海外サポートデスクやJETROからの情報提供や、海外での商談会の支援を受けながら新規販路の開拓を行っている。
- 各種情報提供や現地流通業者との連携により、現地の需要を把握し、需要に応じたお茶づくりを推進する。
- お客様の製品への評価やご意見を製品に反映させ、更なる輸出の拡大に努めていく。特に、整備する茶粉碎設備で製造する粉末茶についても、色、風味など徹底的に商品開発をすすめ、お客様の要望に適合したお茶づくりを進める。



4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標（令和6年度）
輸出額（円）	340,578,000	423,500,000
輸出量（t）	403	480
輸出先国	台湾・アメリカ・EU・タイ他	台湾・アメリカ・EU・タイ他
生産量/取扱量（t）	466	560